

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和元年度第 1 回高松市廃棄物減量等推進審議会
開 催 日 時	令和 2 年 1 月 31 日(金) 14 時 00 分 ～ 16 時 00 分
開 催 場 所	高松市防災合同庁舎 501 会議室
議 題	(1) 高松市の廃棄物減量・資源化の状況について (2) 食品ロス対策等に関する取組について (3) プラスチックごみの削減に関する取組について (4) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	11 人 生嶋暹、今村幸一、栗島由紀子、篠田大輔、高橋一成、中澤悦子、古川尚幸、古川由美、細谷芳久、松山千恵子、宮武寛
欠 席 委 員	2 人
傍 聴 者	0 人 (定員 10 人)
担 当 課 お よ び 連 絡 先	環境総務課 (TEL839-2388)

審議経過及び審議結果	
(1) 高松市の廃棄物減量・資源化の状況について (事務局説明) (委員)	1 人 1 日当たりの再資源化量の平成 30 年度実績は 183 g と少ない。資源化量が減少している中、一般廃棄物処理基本計画の目標値達成のための方針があれば教えてほしい。 (事務局) 紙類の資源化量は、年々減少している。紙・布の収集日にごみステーションを見ると、最近は新聞・雑誌などが少なくなった。ライフスタイルの変化もあり、購入量が減って排出量も減っている傾向はある。分別の徹底を継続して啓発するとともに、資源化量の減少の原因となるものについて、調査等をしていきたいと考えている。
(2) 食品ロス対策等に関する取組について (事務局説明) (会長)	今年度、フードドライブを 3 回実施しているが、審議会委員の皆さんに、事前に日程のお知らせはしているのか。 (事務局) していない。

(会長)

広報面などで協力していただける場合もあると思うので、次回実施時には、是非、委員の皆さんに事前に知らせてほしい。

(事務局)

次回から、そのようにさせていただきたい。

(会長)

フードドライブで集まった食品は、全部使われたのか。

(事務局)

食品は、フードバンク香川を通じて、支援を必要としている施設、団体等に配布された。

(会長)

3つの条件（①未開封、②賞味期限まで最低1か月以上、③常温保存が可能）を満たした食品を受け付けたということだが、満たさないものもたくさんあったのか。

(事務局)

それほどはなかった。

(委員)

私は、福祉系の仕事をしており、使わない食品を集めて、福祉施設等へ配布できないかと考えている。どのようにすればフードドライブの取組みができるかを、どこかに掲載するなど、「見える化」を図ってほしい。

(委員)

食品ロスという言葉の認知度は85%と非常に高い。一方、クールチョイスの認知度は低い。食品ロスもクールチョイスの一例だと思うので、食品ロスの啓発の際に、クールチョイスという言葉も宣伝するようにすればよいのではないか。

(事務局)

検討させていただきたい。

(委員)

商店街の人たちが集まった際、自分の家の使わない食品を持ち寄り、無料だと皆もらいにくいと思うので、食品を安価で売買することは法律上問題があるか。

(会長・委員)

少なくともお酒は、許可がないと売れないのではないか。飲食品の種類には注意を要する。

(委員)

スーパーでは、小売りのお惣菜が多く販売されており、とても助かっている。反面、包装が立派であるためプラスチックごみが多くでる。

(委員)

紙製のものなど色々試しているが、販売する場合、どうしても見栄えや利便性が大事になってくる。薄くても強度のよいものなど、今後もっと良いトレーがでてくると思うので、意識的にそういうものを使わせていただきたい。

(3) プラスチックごみの削減に関する取組について

(事務局説明)

(委員)

ポスターによる啓発内容に、目標となる時間的な区切りがあったら、それに向けてやろうという気持ちになると思う。色は、緑色と黄色だけなので、ポイントとしてのオレンジ色や赤色を入れると目立つと思う。

(事務局)

次回、新しいポスターをつくる際には、意見を参考にさせていただきたい。

(会長)

ポスターにデザインされているエコバックくんは、いつできたキャラクターか。

(事務局)

平成 20 年度に公募し、エコバックくんを選定した。

(委員)

着ぐるみもあるか。

(事務局)

ある。高松クリーンデー“たかまつきれいでー”で登場させるなど、着ぐるみを利用しての周知啓発も行っている。

(委員)

お店に行ってもマイバッグを持っている人が少ない。色々なところで、マイバッグをいただくが、マイバッグの使用は、まだまだ浸透していないように思う。

(委員)

私の周囲では、マイバッグを持っている人は多いし、確実に増えている。スーパーでも、マイバッグを持っていくと、お得になる取組をしているところがある。

(委員)

弊社でも、7月のレジ袋有料化に向けて、色々と検討しているところである。新居浜市に有料化している店舗が2つある。弊社の平均エコバッグ持参率約 27%に対して、新居浜市の2店舗は 80%を超えている。有料化が影響していると思われる。プラスチックの買い物袋だけが、クローズアップされているが、プラスチックごみの中のほんの一部である。レジ袋が象徴的に取り上げられて、有料化が進められているが、市や県など行政には、有料化の意味合いやプラスチックごみの排出抑制についての啓発をしっかりとっていただきたい。

(副会長)

環境行政に関する予算をしっかりと確保して充実した取組みをしてほしい。予算がつくように、きちんと市議会議員に説明しなければならない。この審議会の議論を市議会議員にも見てもらいたい。

また、瓦町 FLAG でイベントを実施しているが、瓦町 FLAG では人は集められない。

(事務局)

予算確保に努めているが、市役所全体でのバランスもあり、環境局の中でも優先順位をつけて対応している状況である。今年度は、瓦町 FLAG で開催したが、来年度は別の会場を検討している。また、マイバッグの利用促進については、市役所における取組として、マイバッグを持って生協で買い物をする市長の写真をポスターにし、職員に対して周知啓発しているところである。まず職員が取り組まないことには、市民にも伝わらないという思いがある。

(委員)

海洋汚染は、レジ袋削減で本当に解決するののかという疑問を持っている。そもそも不法投棄の問題ではないか。また、せつかくレジ袋を有料化するのであれば、そのお金をどのように使ったら環境に貢献できるののかということ、考えることが大切ではないのか。レジ袋より本当に悪いのはマイクロプラスチックだと思う。そちらのほうを早く何とかしなければならぬのではないと思うが、そのような声はあまり上がっていない。

(委員)

海洋プラスチックごみの中に占めるレジ袋の割合は小さいが、おそらく行政や消費者団体等にとって、マイバッグが一番アピールしやすいということなのだと思う。海洋汚染については、不法廃棄のほうの問題だと思うので、そちらのほうにも力を入れて取り組んでいただきたい。

(委員)

ある観光地に行った際、プラスチックごみがたくさんあり、魚の死骸もあった。たくさんの方が来ていたが、そのごみを拾おうという意識を持っている人は少ないようだった。プラスチックごみを拾わずそのままにするとどうなるかという点を啓発して、一人一人の意識を変えていく必要があると思う。コミュニティセンターなどでパネル展示をしたり、エコについてのゆるキャラを活用して子どもの時から教育していくことなども必要であると思う。

(事務局)

プラスチックごみが風の強い日に飛ばされて、河原などに落ち、そこから海へ流れていくこともある。

(委員)

問題解決を図るためには、何が真の原因かということ突き詰めて、その原因に対する対策をしていく必要がある。何が原因かを分析する努力を怠ってはいけない。安易に、レジ袋が悪玉だという材料を提供してほしくないと思う。

(会長)

限られた予算だが、やるべきことにはこれだけお金が必要だということを更にきちんと訴えていただきたい。あとは、その中でできることを考えていかなければならないと思う。

レジ袋がなぜあそこまで槍玉にあげられるのかは、何か象徴がなければ進まないという考えが、国全体にあるのではないだろうか。それはある意味仕方がないことだと思うが、ある程度、科学的に原因を把握した上で取り組んでいくことが必要だと思う。

少し厳しい言い方になるが、ここに出てきている取組はどこでもやっていることが多い。高松市としてここに力を入れていて、これが高松市の環境行政の特徴だということが、もう少しはっきりアピールできれば、もっと関心を持っていただけるのではないかと思う。

(委員)

市指定収集袋のバイオプラスチック化を調査研究の予定とあるが、ボランティア袋も含まれるという解釈でよいか。

環境白書の発行について、今年度以降も続けるということによいか。

(副会長)

環境白書は、冊子にならないと聞いた。

(事務局)

ボランティア袋も含む。

環境白書は、今年度までは従来通り印刷物として発行する。来年度は、CD化を検討しているところである。

(副会長)

環境白書を、審議会委員や衛生組合各会長などもっと色々な人に読んでもらったかどうか。

(委員)

環境白書を印刷物からデジタル化することは、環境保全という視点からは良いことである。単に冊子を作らないということではなく、環境にとって良い方向で改善するということを宣伝していただいたらよいと思う。

(会長)

環境白書をCD化した際、高松市の環境の現状や問題点などをパワーポイントなどに入れたら、小学校や中学校など色々なところで利用できるのではないかと思う。せっかくCDを作るのであれば、活用できるものを作成してほしい。

(4) その他（羽毛布団及び家具類のリサイクルについて）

(事務局説明)

(会長)

無償で家具を渡すと、インターネットなどで、売る人もでてくるのではないか。

(事務局)

市民の方から手数料をいただいて引き取った家具であることや、補償の問題などもあり、無償での引渡としている。

(4) その他（生ごみ堆肥化容器・生ごみ処理機購入補助事業の廃止について）

(事務局説明)

以上